

資料紹介

「因州記」

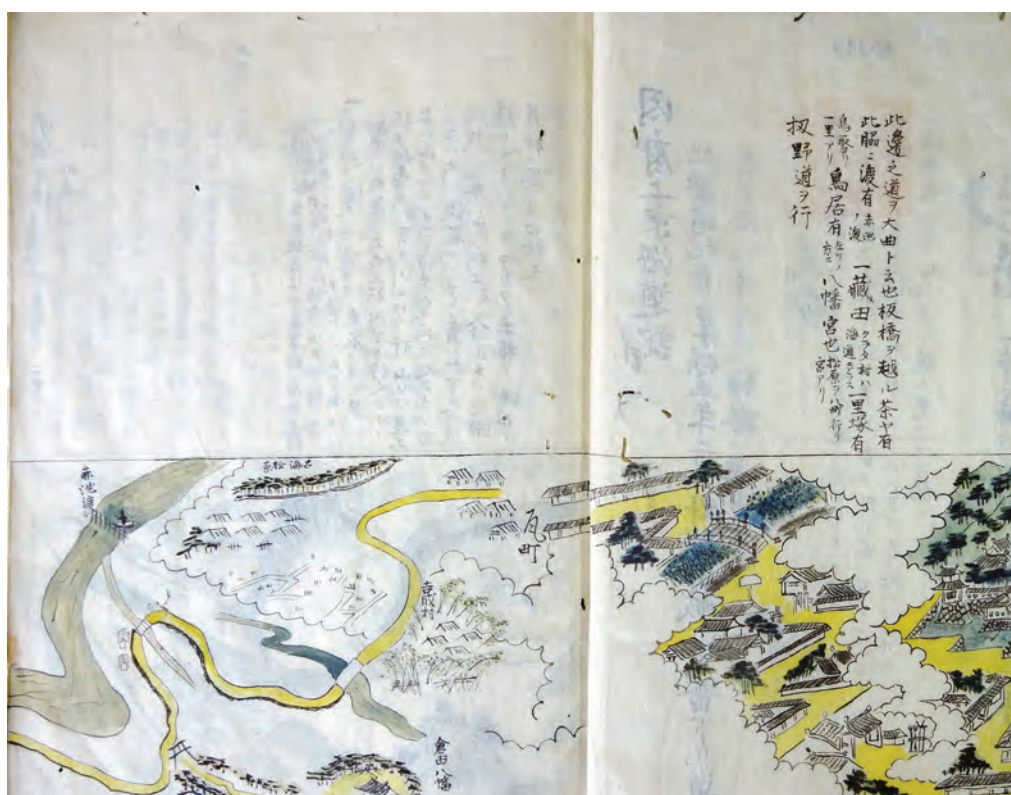
（鳥取県立博物館所蔵）

「因州記」(鳥取県立博物館所蔵)

著者の野間宗蔵(？)享保十七年(一七三二年)は、鳥取藩士で、通称は亀太郎・八左衛門、諱は義学である。鳥取の歴史や地誌の著述家として知られている。「因州記」は、四冊で構成され、一冊目には鳥取城下から京都の街道について記した「因府上京海道記」(享保六年)、二冊目は「因府ヨリ備前岡山海道記」(享保十六年)、三・四冊目は「道路之巻」として因幡国の名所などを記している。なお、一冊目には諸家の系図、二冊目には年中行事を加えていることから、街道だけでなく幅広く当時の鳥取を知る貴重な地誌であると言える。『鳥取県の地名』(日本歴史地名大系三三、平凡社、一九九二年)には、この資料からの引用が散見される。鳥取の街道や名所などを語るとき、必ず引用される文献として利用されてきている。

無駄安留記隊報告書・智頭篇の付録として選んだのは、この「因州記」のうち「因府上京海道記」の彩色付きの絵図で、城下から国境までのものである。とくに注目して欲しい点は、「赤松ホキ」(赤松棧道)と「サ、ガホキ」(笹ヶ棧道)、そして「因州作州境」(駒帰阪)で、今回の無駄安留記隊の学生が担当した箇所である。

(文責 岸本覚)



上ノ渡ハ松屋ノ取出しハ高草郡ノ用水ノ水
 ナル河原ニテアリ 則チ渡シテハ松ノ野ニ至リ
 一木ノ渡ノ邊ニ云 鳥取ヨリ三里
 船渡シモ渡リ上右ヨリ行川ノ分テ行クヨホト
 行テ叔島村有又ハキワヲ行山ツノ道ニ
 上ル山ツヲヨホト行テモ松屋ニ出ル上右
 ノ方ハ大川流石クミアリ昔ハ此下大キ成
 洲成シ今ハ岩間ニ砂今テ山キノ汁洲
 殘ルニト口トタリクモ土橋ヲ渡ルト
 具於釜ノ口村ニ

釜ノ口村　鳥取ノ里
此村ノ中、小川流レテアリ、左ノ芝、乳場有
大川、熱ハ石ニ出ル、山々々々、村々遠
見エ、木出サシテ、左ノ田中、森
アリ、柳野道ヲ行リ、一廿市村有、合
竹ヤブアリ、出口一里塚アリ、出ハナレテ
左ノ方ニ一箇王山ト安曇寺云ハナレテ
此令界本堂也。而アリ、此邊山高、耕作レ
和羅郡モソノ道一を那會、松戸、新川上吉
阿波郡モ少キモノナリ、道有、行キテ又
大安曇寺（巻）道有、越馬、赤瀬川上吉
ヨリテ下テ至ル、此道三ツラ又此道
ノ右ニ下テ至ル、此道三ツラ又此道
ハ新ナマツミテ城下ニ出ス、此道三ツラ又此道
ス、板橋有、此処小家が比持、鳥橋
渡リ、越テ右ノ谷ニ入リ、少許道行テ
一高村、村に出サ、左ノ邊山ニ松二三百
見エ、左ノ方行テ、左ノ山壁ニ穴ノ
谷チウ、エリワケナリ、此邊左リニ小河流
ノ小川ノ中ニ色々ノ岩有、水面白キ交
イフ川ノナシ、色ノ水ヲ道ヲ行、右
ノ大川ノ中、絶景ノ岩クワ、有水多
ニツテカノ叔用瀨入口



宿左ノ山ノ下ニ廣キ村アリ
出アイト流ルイビニ
川エ落シシバク行テ里塚ヲ有アリ
左ノ方ニ
是ヨリ次第ノニ山中エカカリツレクナル
道ナリ
一赤松ホキ難示ス
竊木シテリ炭石ワビタリ見エ成景
地ニアリクニ一里ツカ有ニ此テ通
キテ一段高ニ也壘ヲ有ニ寺屋村トイフ
右大河見エテリヤホウ寺見エテ
ニバク山ツツ道ヲ通りテ則木原村有
山ツツ道ヲ行テ

山イキ 此辺
 花ノ此
 一面ニ
 黄也
 此山イキ
 花ノ此
 一面ニ
 黄也
 一カレノ木ホキ 難所ニ番
 此ホキカラボキ 其傍河津村有山
 ナレテ川ニツヰメル村ノ又少シ行テ
 茶ヤ有 扱少クノ坂ニツアリ 扱
 一ウノカホキ 難所ニ番
 ノホリテニツヰワリテ時右ノ川向ノ
 山ニ竜ノ殿虎野ヨリ江ノ往來ノ
 右道有テ 山ノ麓見リ 五ツ見処
 帶ノ如クニツヰカサニル 又見テ
 コミ山容有 カツラウハ 扱少平地行
 又小キホケ有 又平地行又山ノ
 シヤウ道 廻ルメケリヤウイハレモ同
 ニヤウ道 処ニ處有テキウハレシク
 タイクツツナル道也 此ヨリウヘモウ
 ニワリテハ 土橋ヲ渡リテ スル
 此ハハ山ヨリ落ル水スニニカ多リ



